

Library News

2023年9月発行 347号
徳島県立城東高等学校図書館

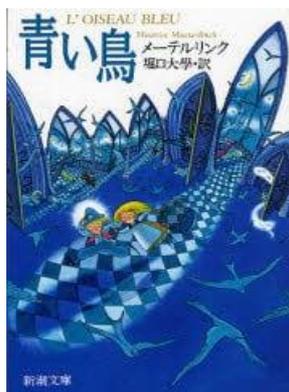
来月はノーベル賞週間。そこで
**ノーベル賞受賞作家の作品を
読んでみよう 特集!**

ノーベル賞のHPによるとノーベルさんは遺書に、この賞を授けるのは
*to the person who shall have produced in the field of literature the most
outstanding work in an ideal direction ...*

と書いていたそうです。毎年10月初めに発表されるこの賞、ここ数年、日本人では村上春樹さんに期待が高まっていますが、果たして今年は？

めちゃくちゃ難しい本ばかりかと思いきや、意外にそうでもないのです。2016年には歌手の**ボブ・ディラン**が受賞してちょっと物議を醸したこともあります(受賞理由は”for having created new poetic expressions within the great American song tradition”)。

世界の文学作品の中から選考委員が考えに考えて選んでいるので、ただ面白いだけではなく、表現も内容も奥が深いだろうことは言うまでもありませんが、多くは日本語に訳されているし、そもそも普通に本屋さんで売っている本ですもの、恐るに足らず！というわけで、城東図書室に所蔵している作品を紹介したいと思います。原文の言語も記しておきますね。とりあえずは日本語訳で味わうことにはなりますが、いつか原文で読めたらサイコーですね！



『**青い鳥**』
メーテルリンク 著
堀口大樹 訳 (新潮文庫刊)
青い鳥は幸せの象徴、って何となく常識のようになっていますが、出所はこの作品。1901年、なんと今から100年以上前、ノーベル賞が1901年から始まったことを思うとかなり初期の受賞ですね。
ベルギーの作家で、言語はフランス語。しかもこの作品は戯曲(お芝居の台本)なのです。知っているようで実は読んでいなかった人、この機会に読んでみては？



『**春の心臓**』
W.B. イエイツ 著
芥川龍之介 訳 立東舎
イエイツはアイルランドの詩人です。とても高名です。言語は英語。英語文学のなくてはならない存在とされていて、音楽や映画にも引用されています。それにしても訳が芥川って！隣の「青い鳥」の堀口大樹訳もすごいですが、豪華キャストにビックリです。この本はイラストをホノジロ トヲジが描いているので眺めながら言葉の余韻にひたろう。

ガブリエル・ガルシア＝マルケス

かっこいい。響きが…笑
多くはない中南米の受賞者で、コロンビアの作家です。言語はスペイン語。魔術的リアリズムという一分野を築いたとも言える大御所。代表作に『**百年の孤独**』(かっこいい響きが笑)があります。とっても分厚い本ですが城東にもあるのでトライしてみてもしくは短編集が何冊あるので、そこから入っていくのもいいですね。摩訶不思議な世界が広がりますが、アメリカでは日常茶飯事。ガルシアマルケス自身は特に苦悩せずにあの世界を描けたのかも。

カズオ・イシグロ

ご両親共に日本人ですが、ご本人は日本語は話さないようです。でも日本にはとても愛着をもたれているようで、日本人を描いた作品もあります。受賞作も映画化も多く、城東にも10冊ほどありますが、その中から『**わたしを離さないで**』を挙げますね。全寮制施設に生まれ育ったキャシの回想で物語は進みます。読んで行くうちにこの小説の世界が明らかになって行きます。初めはしたくないので、ここまで。セピア色のトーンが漂う作品。ミカイクするとしたら(しないだろうけど笑)萩尾望都さんの絵柄で。願望。原著は英語。

スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ

ソビエト生まれ、ベラルーシ国籍。著書はロシア語です。ジャーナリストで、城東で所蔵している2作品はどちらもルポルタージュ。
『**チェルノブイリの祈り**』
『**戦争は女の顔をしていない**』前者は原子力発電所事故を扱ったもの、後者は第2次世界大戦で従軍した女性たちから聞き取りを行って戦争の姿を明らかにしたもので、漫画化もされているので、タイトルを聞いたことがある人も多いのでは。

上記紹介を見ても小説あり、詩あり、ルポルタージュあり、歌詞ありと様々な文学ジャンルが選考の対象になっているのがわかりますね！人間や社会の諸相をえがっているのが、映画化されることも多いです。

映画化作品としては**ゴールドフィン**(英国・英語)『**蠅の王**』(有名なジュールの『十五少年漂流記』の真逆を行くストーリーで、ノーベル賞版『バトルロワイヤル』!?悪の感情にくるまりたい気分の時に)、**サラマーゴ**(ポルトガル・ポルトガル語)『**白の闇**』(突然視界が白くなるという感染症が起こり、世界に感染していく中で、人々がパニックに陥り社会が崩壊していく様を描いた作品。視覚という感覚が奪われた時、人間に残るものは？映画タイトル「ブライト・ネ」)**クッツェー**(オーストリア/南アメリカ・英語)『**恥辱**』(大学教授が転落していく)など、結構あるのですよ(何かどれも後味悪そうって？ふん。一度読むか、ご覧あれ)

また「散文詩」というあまり聞かない分野の作品もあります。**ヒメネス**(スペイン・西語)『**プラテロとわたし**』は愛馬(ロバ)との交流を描いた作品で、詩と言っても普通の文章のようだし、本一冊分あるし、何ともしめのない感じなのですが、城東にも文庫と単行本とあるので(それぞれ挿し絵が違う)読んでみてね。ちなみにヒメネスはお礼(ペセタ)になりましたよ～(トリビア)。

なお、城東のみんなにコンスタントに貸出がある**ヘッセ**(ドイツ/スイス・独語)『**車輪の下**』『**少年の日の思い出**』や**ヘミングウェイ**(アメリカ・英語)『**老人と海**』、**カミュ**(フランス・仏語)『**異邦人**』『**ペスト**』もノーベル賞作家です。知らずに読んでいた人も多いのでは？意外に身近なノーベル賞作家・作品。読んでみよう。

新しく受け入れた図書 (6/29~8/21 受入分) S新書 B文庫 IB岩波ブックレット M 漫画 T徳島の本

	007	ざんねんなインターネット：日本をダメにしたネット炎上10年史		ひろゆき // 著	ネットの事件史を概観できる。これからの利用に役立てよう。
	007	奇跡のフォント教科書が読めない子どもを知って-UDFジラ教科書体開		高田 裕美 // 著	開発物語。多様性の時代における教育・ビジュアルとは。
	104	SNSの哲学：リアルとオンラインのあいだ		戸谷 洋志 // 著	なぜ承認されたい？ SNSの時間の流れは？うまく利用するには。
S	186	マイ遍路：札所住職が歩いた四国八十八ヶ所		白川 密成 // 著	第五十七番札所・栄福寺の住職が、68日をかけて歩いた記録。
S	209	世界史とは何か：「歴史実践」のために		小川 幸司 // 著	「歴史総合」の対象、18世紀以降の近現代史の授業プランを構想。
IB	234	検証ナチスは「良いこと」もしたのか？		小野寺 拓也 // 著	ナチズムとは？歴史学からみてナチに評価できる点はあるか？
S	301	客観性の落とし穴		村上 靖彦 // 著	客観性？エビデンス？数値化できないものを切り捨てていいのか？
	304	池上彰の「世界そこからですか!？」		池上 彰 // 著	副題：ニュースがわかる戦争・国家の核心解説43 受験にも。
	304	日本と世界の課題：ウィズ・ポストコロナの地平を拓く		NIRA総合研究開発機構 // 編	第一線で活躍する77人の識者の課題と展望。
S	304	ソーシャルジャスティス：小児精神科医、社会を診る		内田 舞 // 著	ハーバード大学准教授がSNSの炎上、社会の分断等語る。
S	304	知らない恥をかく世界の大問題	14	池上 彰 // 著	大衝突の時代-加速する分断 0.7とウクライナ、台湾有事、グローバルリテラシーetc...
	311	すらすら読める新訳君主論		マキャベリ // 著	人間関係の構築法や交渉術など、人間心理を鋭く捉える。
T	332	徳島県の経済と産業	2023	徳島経済研究所 // 編	徳島の今を知る。受験にも。
S	333	日本型開発協力：途上国支援はなぜ必要なのか		松本 勝男 // 著	欧米とも中国とも異なるその独自のあり方とは。
S	333	入門開発経済学		山形 辰史 // 著	副題：グローバルな貧困削減と途上国が起こすイノベーション
	334	華僑・華人を知るための52章		山下 清海 // 著	世界に散らばる華僑・華人の姿。
S	361	集団に流されず個人として生きるには		森 達也 // 著	宗教や戦争、ネット、組織といったことを客観的に捉えるには。
S	366	女性不況サバイバル		竹信 三恵子 // 著	ケア的労働を担う女性たちの雇用危機は無いことにされた。
S	369	マイノリティ・マーケティング：少数者が社会を変える		伊藤 芳浩 // 著	マイノリティによるマーケティング手法とは。社会を変える。具体的事例。
S	372	読み書きの日本史		八鍬 友広 // 著	成立・往来物・寺小屋・近代学校読み書き普及の歴史を探る。
B	404	空想科学読本：「高い高い」で宇宙まで!		柳田 理科雄 // 著	コナノ蝶ネクタイ型変声機は便利？『星のカベ』の骨格は？
	410	それ、数学で証明できます。		北川 郁馬 // 著	副題：日常に潜む面白すぎる数学にまつわる20の謎
	457	僕とアンモナイトの1億年冒険記		相場 大佑 // 著	古生物学研究。大学時代から現在まで。
S	471	在来植物の多様性がカギになる：日本らしい自然を守りたい		根本 正之 // 著	姿を消した野草たちをまた都会に呼び戻すことは可能か？
	471	花粉ハンドブック		日下石 碧 // 著	身近に咲く植物89科186種の花粉を紹介する図鑑。
	481	進化が同性愛を用意した：ジェンダーの生物学		坂口 菊恵 // 著	1500種を超える動物で同性間の性行動が観察。多様性の意味は？
S	482	都市のくらしと野生動物の未来		高槻 成紀 // 著	東京の郊外、昭和という時代、都市と人のくらし、都市と野生動物等
T	487	徳島県の魚類研究		中野 晴夫 // 著	副題：主として淡水魚類を中心として
S	490	先端医療と向き合う：生老病死をめぐる問いかけ		■(アデ)島 次郎 // 著	生殖補助医療、遺伝子検査、ゲル編集、再生医療、安楽死など
	490	対話する医療：人間全体を診て癒すために		孫 大輔 // 著	「対話」を大事にする家庭医が、新しい医療の好みを明示する。
	493	摂食障害がわかる本：思春期の拒食症、過食症に向き合う		鈴木 眞理 // 監修	症状の始まりから回復までをイラストとともにやさしく解説。
	493	生命の旅、シエラレオネ		加藤 寛幸 // 著	国境なき医師団の小児科医が描く現場と患者の子供たち。壮絶。
	498	「チーム医療」とは何か：患者・利用者本位のアプローチに向けて		細田 満和子 // 著	チーム医療の4つの要素や6つの困難、これからについて。
S	498	医療と介護の法律入門		児玉 安司 // 著	国内外の例とともに語る。
	501	小さいエネルギーで暮らすコツ		農山漁村文化協会 // 編	太陽光・水力・薪&炭で、電気も熱も自分でつくる。
S	540	日本の電機産業はなぜ凋落したのか		桂 幹 // 著	副題：体験的考察から見えた五つの大罪
	572	図解まるわかり電池のしくみ		中村 のぶ子 // 著	産業の進歩に欠かせない電池！フィックアップ。
	611	中山間地域ハンドブック		佐藤 洋平 // 監修	人口減少と高齢化。36のテーマに分け未来社会を展望。
	611	半農半X的これからの生き方キーワードA to Z		塩見 直紀 // 著	大地・食・農を大事にしながらかせになるにはキーワード26。
	723	木村美鈴作品集：砂色の中に		木村 美鈴 // 作画	
M	726	はたらく細胞Lady	1~5	原田 重光 // 原作	
M	726	神様のバレエ	Vol.31	西崎 泰正 // 作画	
M	726	税金で買った本	7	ずいの // 原作	
M	726	この音とまれ!	29	アミュー // 著	
M	726	キングダム	69	原 泰久 // 著	
S	762	パリの音楽サロン：ベルエポックから狂乱の時代まで		青柳 いづみこ // 著	様々な芸術家たちの交流を生き生きと描く。
S	801	言語の本質：ことばはどう生まれ、進化したか		今井 むつみ // 著	なぜ口はことばを持つのか？言語の誕生と進化の謎。
	810	言語沼：言語オタクが友だちに700日間語り続けて引きずり込んだ		堀元 見 // 著	言語にまつわる話を、2人の会話でゆるく楽しく紹介。
S	814	女ことばってなんなのかしら?：「性別の美学」の日本語		平野 郷子 // 著	女ことばを産んだ土壌と歴史的背景、日本の女と男の関係性。
	817	現代評論キーワード講義		小池 陽慈 // 著	見開き2ページで一つのキーワードを学ぶ。キーワードは100。
S	837	世界が広がる英文読解		田中 健一 // 著	ニュース記事や文学作品といった実際の英文の読み方を解説。
	913.3	源氏物語を知る事典		西沢 正史 // 編	物語の中身はもちろん、時代背景や文学史の位置なども。
	913.6	あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。 映画化		汐見 夏衛 // 著	家を飛び出した中百合。目をさますと、そこは戦時中の日本。
B	913.6	捜し物屋まやま	1~3	木原 音瀬 // 著	”捜し物屋”を営む不思議な兄弟のお話。
B	913.6	交換ウソ日記 映画化	1~3	櫻 いいよ // 著	”好きだ”と書かれた手紙を机の中に見つけた希美は。
B	913.6	天久鷹央の推理カルテ	1~5	知念 実希人 // 著	不可解な事件を天才女医・天久鷹央が解き明かす!
B	913.6	ようこそ実力至上主義の教室へ	2年9.5	衣笠 彰梧 // 著	
	913.6	ハンチバック		市川 沙央 // 著	重度障害者の井沢釈華が織りなす物語?芥川賞受賞作。
B	914.6	パリの砂漠、東京の蜃気楼		金原 ひとみ // 著	二つの都市を舞台に、孤独と苦悩を綴る。1974。